

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110413994		
法人名	医療法人 福和会		
事業所名	グループホーム 青空		
所在地	〒006-0841 札幌市手稲区曙11条2丁目3番13号		
自己評価作成日	2025年11月15日	評価結果市町村受理日	2026年1月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvgyoCd=0110413994-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvgyoCd=0110413994-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2025年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人福和会の敷地内にグループホーム青空があります。札幌立花病院、スカイラークに隣接し渡り廊下でむすばれています。24時間受診可能な医療連携体制を整え、日々安心安全に生活を楽しみながら健康維持していただいています。  
施設の理念 1.ゆっくり 2.いっしょに 3.楽しい暮らしを目標に、笑顔で優しい介護を実践しています。施設に面している広い中庭は季節の花や樹木が茂り、お天気の良い日の散歩が楽しみとなっています。健康維持のため毎日の体操、午前午後には笑顔や会話がはずむ趣向豊かなレクリエーション活動を行っています。  
お誕生日会や、春には節分、ひな祭り、畑作業、バスレクリエーション。夏には前庭のサクランボ祭り、秋には収穫祭、紅葉バスレクリエーション、冬にはクリスマス会などの季節ごとのイベントを計画して楽しんでいただいています。毎日の食事は「ご飯が楽しみ」と好評をいただいています。  
入居者様が今持てる能力を保ちながら、潜在能力の引き出し活性化にも職員一同で関わり、明るく落ち着いた生活が続いていかれますように支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 青空」は、開設から25年を迎えた、医療法人福和会の敷地内にある4階建てケアハウスの1階に併設された1ユニットの事業所である。母体病院とは渡り廊下でつながり、外に出ることなく受診が可能で管理者が看護師であることから健康管理や医療連携に優れている。共用空間は広い中庭に面し、四季折々の花壇の草花や「青空畑」の作物の成長も楽しめる心地よい空間となっている。介護計画の面では、計画作成時に利用者一人ひとりに対し理念と本人本位を重視し、職員間で話し合い確認している。恒例の家族参加のバスレクリエーションは外食の機会を設け、2か月ごとに送付の「青空便り」と個別便りで利用者の様子を伝え家族とのつながりを大切にしている。管理者考案の第1回「家族参観日」は利用者家族に大変好評で今後も開催を予定している。利用者の楽しみを大切に、ゲームの工夫や職員家族の協力を得て利用者の趣味の継続を支援するなど、利用者の「楽しい暮らし」をアイデアで支えている。家族の安心と、利用者ができることを維持しながら、楽しく会話し自分らしく過ごせる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆっくり、いっしょに、楽しい暮らしを目標として運営理念、介護理念を玄関ホール、施設内に掲示しています。利用者の健康と心のケア、ご家族の心身の安寧に努め、職員一同日々取り組んでいます。	運営理念、ケア理念を玄関、共用空間に掲示している。重要事項説明書にも明記し家族にも説明している。会議は、利用者一人ひとりに対して理念にそったケアとなっているかを再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を2か月に1回開催して曙地区町内会長、地域包括支援センター、利用者家族参加による活動状況報告意見交換をしています。地域住民の高齢化がすすんでいる現状ですが、お祭りの神輿が回ってきたり近隣幼稚園との交流があります	管理者は町内会の総会に出席し、地域と連携を図っている。運営推進会議には町内会会長が主席しており、地域の情報を知る機会となっている。近隣の幼稚園園児との交流が継続しており、利用者は地域の一員として暮らしている実感を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流は運営推進会議、近隣幼稚園児交流会、ホームの年1回ご家族様参観日など実施しています。手稲区内グループホームのつながりづくりの会の参加により知見を広げる機会もあります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で青空活動報告と情報意見交換をして、家族からの意見要望については速やかに対応してサービス向上に努めています。	運営推進会議は2か月ごとに開催し、年6回のうち3回は法人事業所と合同で、3回は当事業所単独で実施している。会議では事業所の現状報告や行事報告等が議題となり、活発な意見交換や情報交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	令和7年10月16日札幌市の運営指導実施ありました。指摘事項については速やかに対応できています。手稲区担当部署は介護保険更新、介護度変更などで書類、電話連絡で情報交換サービス提供に協力関係継続しています。	管理者が電子申請等を行っている。必要に応じて関係部署に電話連絡を行い、円滑な情報共有を図り協働関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催、日常の介護の中で具体的な事例についてミニカンファレンスをしたり実践に繋げています。認知症の学習、虐待防止・身体拘束適正化研修参加して職員間報告、話し合いをしています。玄関の施錠は防犯上夜間のみ行っています。	指針を整備し、委員会を定期的に開催している。年2回の研修は、1回目はスピーチロックをテーマとした研修を実施し、2回目は各利用者への支援について、自身の行動を振り返る研修を予定しており、いずれも実践に結びつく研修となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加、研修報告会、職員への周知を行っています。高齢者虐待防止委員会、研修を実施して職員間で意見交換、を行っています。		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前後見人研修を受けています。現在制度利用必要の方はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明は時間をかけて、特に家族が関心をよせる費用、サービス、退居、入院などの事項については、理解納得されているか確認しながら分かりやすく、すすめています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の希望要望には、情報を職員間で共有して対応策を話しあって対応しています。必要時家族に連絡したり、2か月おきの青空便り、運営推進会議議事録で、意見や要望を伝えてもらいやすい言葉を掲載して工夫しています。	運営推進会議への出席のほか、2か月ごとに発行の「青空便り」や個別便りで利用者の様子を家族に伝えている。また、面会時、電話連絡時、家族参加型レクリエーションの機会などを通して、意見や意向、要望を聞く機会がある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時、特に変化のある緊急時はミニカンファレンスで職員の意見が反映されるようにしています。職員全員が情報の共有、統一した関わりが持ていけるように連絡ノート、利用者個人ノートを活用しています。	日常業務の中で意見や意向を聞き取っている。職員から出た意見等は職員間で共有している。職員は行事等においてそれぞれ役割を分担し、運営に携わっている。希望休は取得可能となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者に必要時職場状況、環境を報告しています。整理整頓、物品収納の工夫をして、職員各々の意見提案により、整い動きやすい職場環境となるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望にそい、自由に研修を受けることができます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福和会グループの朝風とは常に情報交換協力体制をとっています。今年(令和7年発足)手稲区内グループホームのつながりづくりの会に参加して知見を広げる交流の機会をもっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報と本人の認知度、身体、ADL状況に合わせて、話しかけ関わりを多く持ち不安心配が薄らいでいけるように職員は配慮しています。本人の居場所となっていけるように、お話ししやすい雰囲気づくりを心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時に本人の生活の様子を家族から時間をかけて、傾聴しています。要望、希望、心配不安について施設で出来る事や成り行きについて説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人、家族に施設内の見学を実施してもらい、家族から現在の心身状況、不安や希望を傾聴、情報収集しています。それを元にサービス提供開始としています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居後は永い生活経験をもち若い頃は活躍されていた先輩として職員は接しています。見守りの中で野菜の調理準備、古布からのウエス作り、枕カバー交換などの出来ることを行っていました。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	希望時の面会、年2回のバス旅行、ご家族参観日など機会を多く持たれますように実施しています。利用者の希望の物品があれば家族に連絡して持参してもらい、手元に置くことで嬉しそうにされています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会希望あれば、都合のよい時刻に面会してもらっています。個人的な外出は病院受診や慶事以外の実施はありません。職員支援で最近の写真とお手紙を定期的に郵送しています。	面会は居室で行われており、家族、親族の訪問がある。月に1～2回の音楽ボランティアの継続的な訪問があり、利用者の楽しみとなっている。また、手紙を書く利用者には投函の支援を行っており、年賀状を受け取る利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	工作、ジグソーパズル、ゲーム、しりとりなどのレクレーション時、近くの席の方と協力して行う姿や会話がよく見受けられています。独唱がいつの間にか合唱になっていることが多いです。職員の言葉かけや関わり橋渡しも上手にされています。		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	立花病院に入院となり退居された利用者の家族が、ホームに立ち寄りお話しされていく事があります。 退居された方の家族が古布などを寄付のため持参される事があります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は言葉かけの機会を多く持つように心がけています。日常の中で、茶話会で、レクレーション時などの何気なくつろいだ発言内容からも、その方の希望や意向の気づきとして職員間で共有して検討しています。	会話から意向を把握できる利用者が多く、職員は「こんにちは」といった日常的な言葉がけから、利用者の発言を引き出す工夫を行っている。聞き取った内容については、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のライフヒストリー、アセスメントシートの作成、家族からの情報。入居後の本人との会話、様子から把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が様子や行動表情、健康状態を観察情報交換、対応した様子を記録伝達。トピックスは個人ノートに記載しています。得意、不得意、支援があれば出来そうな事も含め把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、家族、本人の意見や情報をもとに現在の状況にあった介護計画を作成しています。受け持ちによる評価、課題整理総括表。全職員によるサービス提供担当者会議実施しています。	居室担当職員を中心に、全職員で3か月ごとに介護計画の見直しを行っている。本人の気持ちや家族の意向、医師からの助言を踏まえ、本人本位の介護計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた介護記録をしています。トピックス必要事項は個人ノートに記載して共有し介護計画の見直し、新たな計画作成をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な介護計画に見直しや、特変や状況の変化に応じた対応を検討して柔軟な支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神社のお祭り子ども神輿見学を楽しみ、回ってきた賽銭箱に寄付をする。 幼稚園児の交流の機会にダンス、合唱見学		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院(札幌立花病院)や、他医療機関も受診出来る協力体制を確保しています。職員が日常の健康管理、受診経過把握して、適切な医療が受けられるように支援しています。	全利用者は同一敷地内にある母体病院へ渡り廊下を利用して受診している。管理者は看護師であり、適切な健康管理および病院受診が行われている。専門科の受診については家族と協力して対応している。受診記録は個別に管理し家族と共有している。	

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師常駐です。朝の申し送り、カンファレンスで情報交換を密にしています。必要時協力病院外来受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退居時情報提供書、入院時の細かい看護・介護添書作成して伝達しています。早期退院を目標に医療機関と情報交換、状況把握に努めています。現在の様子を家族に連絡しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化予想される状況の場合、主治医・家族・管理者と話し合いを重ね方向性を確認しています。札幌立花病院入院、または他の医療機関に転院となります。	利用開始時に重度化に対する説明を行い、同意を得ている。医師により重度化が進行、終末期と判断された場合は、本人および家族の意向を尊重し、母体病院への入院や他医療機関への移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、感染発生時のマニュアル作成。意識レベル、バイタル測定、身体損傷の有無、感染症発生の可能性等について職員間で情報交換連絡を密にしています。24時間において、急変時札幌立花病院受診して医師の指示を受けます。家族に状況経過報告の連絡をします。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練(火災、水害、地震)の実施。3日分の食料、水分備蓄。隣のケアハウスとの協力関係になっています。	法人合同、ケアハウスと合同の火災避難訓練を実施している。自然災害を想定した避難訓練についても法人合同で実施している。事業所独自に作成した火災発生想定場所のチェック表を活用し、適時点検を行っている。	ケア場を想定した避難訓練や机上訓練の実施に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者のプライバシーを尊重し、丁寧に分かりやすい言葉かけと対応をしています。	利用者の言動等を尊重し、否定的な対応とならないよう配慮している。また、申し送りは小声で行い、呼びかけは苗字に「さん」付けとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	短く分かりやすい問いかけをして、出来るだけ本人に自己決定の機会を多く持ってもらい、希望にそえるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの、その時のペースに合わせて食事時刻、余暇活動、入浴時刻その他について、調整支援をしています。言葉かけして本人の希望を優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが整うように衣服の調整、2か月おきの美容室整髪をしています。衣服が合わなくなった時は家族に連絡、対応の依頼や、代わりに職員が選んで購入してくる事もあります。		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみな事と、ホールに来てお話しすることが好きな方が多く時間前に着席しています。食器の方付けに協力してもらっています。	畑で収穫した野菜を食事に取り入れたり、誕生会では生ちらし寿司、職員手作りのケーキ、時にはピザを提供するなど、食事が楽しい時となっている。また健康状態に応じて医師と相談し栄養補助食品を提供することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日6回の飲水提供、食事飲水量のチェック、食事摂取状況の観察をしています。各人に合わせた食事形態にして嚥下状況観察対応しています。月初め体重測定、毎月栄養加算会議実施。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア誘導して、仕上げ介助。口腔の観察実施。夕食後毎日ポリドント消毒実施。歯や、義歯の状況悪い場合は協力歯科医院の往診、受診を受けるように連絡調整しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排便チェック表より個々の排便パターンを把握して言葉かけトイレ誘導して排泄の失敗や紙パンツ、パット汚染が少なくなるように支援しています。	全利用者が適時の声かけや誘導により、日中はトイレでの排泄が可能となっている。夜間のみ安全面を考慮し、ポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操の実施と水分補給。排尿排便チェック表で正常、便秘、下痢を把握して早めの処置と下剤内服コントロールしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日の心身状況を観察して入浴を楽しめるように対応しています。シャワー浴のみの希望や、浴槽入浴希望にそい室温、水温に配慮して支援しています。	入浴は一人につき週2回、月・水・木・土曜日の午後に支援している。ヒートショック防止のため温度差に配慮し、利用者の好みに応じ、楽しい時間となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時刻は各人違います。室温、照明、音など安心して眠れる環境に整えています。夜間眠れていない時は職員が話相手になり対応して安心してもらうこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の医療連携記録で薬情報確認できます。誤薬のないように3回確認、ダブルチェック実施しています。必要時内服薬の副作用、症状の変化についての情報交換しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり能力に応じた役割分担をして実行してもらっています。主婦経験があり手作業が早く丁寧です。ウエス作り、野菜の下準備、レクレーション時の後片付けなど見守りの中でしています。		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季以外、お天気の良い日は毎日札幌立花病院中庭の散歩に、利用者職員全員で出かけています。 春、秋のバスレクリエーションは家族参加して出かけています。	季節の良い時期は広い中庭に出て花壇を眺めたり、畑の植物の成長を楽しんでいる。また、行事としてバスレクリエーションを計画し、家族と共に全員で外出、外食する機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとり一人個別にお金を所持して使う事はありません。 入居時お小遣いとして施設で預かり理美容室代金として支払いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望のある時は対応しています。ご家族友人からの手紙は手元において何時でも見られるように保管してもらっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るくやわらかな暖色系の壁と扉、落ち着いた緑色のカーテンで統一され冷暖房完備になっています。 ホールの広い窓から中庭の自然風景が眺められます。廊下壁面は職員、利用者で制作した工作や絵を季節ごとに掲示して楽しんでいただいています。お誕生日会、催いの写真も喜ばれています。	中庭が眺められる共用空間は清潔に保たれ、温湿度も適切に管理されている。心地よく過ごせる色調に整えられており、明るく開放的な雰囲気の中で、観葉植物が置かれ、壁には季節の装飾や利用者が制作した作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブル席は座る場所が決まっています。時々席替えて交流を深めてもらっています。夕食後は一人の時間を過ごしたい方は居室に入り、団欒を好む方は就寝前までホールで過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が普段に使い慣れ親しんだものがある時は家族と相談して持参してもらっています。テレビ、タンス、ベッド等を安全に使用しやすく配置しています。利用者の作品や、家族の写真などを自由に飾って楽しんでもらっています。	居室の間口は広い造りで、自室が分かりやすい工夫もされている。ベッド、ナースコール、空調換気扇が備え付けられ、テレビや調度品、趣味や好みの物が持ち込まれ、ゆったりと自室でくつろぐことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内床、中庭への通路はすべてフラットです。ドアは軽い引き戸で、廊下トイレ浴室に手摺があり安全に移動できます。廊下の幅、トイレ室内も広く、歩行器や車椅子の方が使いやすくなっています。		